2020年11月28日(土)

岡山県教育工学研究協議会

若手の先生方の授業力を高める教育セミナー

授業改善の楽しみ

井原市立出部小学校 校長 森川 孝一

授業の不易

子どもが**主体的**に学習する授業

今、求められている授業改善の視点

主体的、対話的で深い学びの視点による授業改善

どうすればよいのか・・・

子どもが主体的でない授業に 共通していることは?

教師のしゃべりすぎ

教師の「活

子どもは

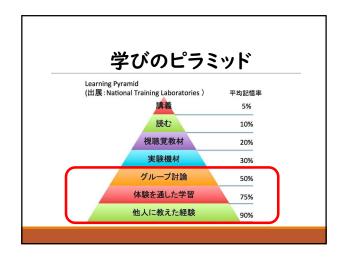
活動

聞くだけ

受動的な授業

荀子の言葉

聞いたことは**忘**れる。 見たことは**覚**える。 やったことは**分**かる。



質問と発問の違いは?

質問

子どもが教科書や教材・ノートを見ればわかるもの

発問

子どもの思考や認識、過去の経験をもとに<u>新たな</u> <u>気づきや発見</u>を促すもの

子どもが主体的でない授業に 共通していることは?

質問で授業を構成

質問の連発 ←しゃべりすぎ

子どもは教科書等の内容を探すだけ

受動的な学習

ICT機器を活用した授業の落とし穴

研ぎ澄まされた発問に向けて

発問は子どもの学びを左右する授業の要研ぎ澄まされた発問とは・・・

- ・発問を言い換えない
- ・補助発問をしない
- ・一つの発問だけで子どもに響く発問子どもの学びに火をつける

研ぎ澄まされた発問を追究する過程が・・・

研ぎ澄まされた発問のためには、

- ★子どもの実態の正確な把握
- ★教材の深い理解

の力が育つ

➡ 教師の成長

研ぎ澄まされた発問に向けて

普段できる努力

自分の発問(授業)を録音する・・・スマートフォン等そして、失敗に気づくことが大切!

失敗に気付けないままでいれば、(当然のことですが)どれだけ授業を繰り返しても、授業力は向上していきません。自分の失敗に気付き、向き合い、流した涙の分だけ、教師は成長するのです。・・・何もかも身に付た状態で生まれてくる人など、この世には一人もいません。みんな人から教わったことや、失敗の経験から学んだことばかりです。

- 。 国士舘大学教授 澤井 陽介 先生
- (前文部科学省初等中等教育局視学官)『授業の見方』より

なぜ教師はしゃべりすぎるのか?

こんなことはありませんか?

●子どもの沈黙 (無反応)に

必要以上に対応してしまう。

教師が発問をしてから、 子どもが発言するまでに間が少ない授業 沈黙を我慢できない!

子どもはいつ考えているのか?

人は考え込むと黙ってしまう。

「沈黙」している時=「<mark>熟考」</mark>している時 「沈黙」に我慢できないと・・・

- ▲発問の言い換え・・・
- ▲補助発問(質問)の連発・・・
 - ◎「沈黙」を楽しむ!

子どもの言葉を待つとは

子どもの**言葉**が**結晶化**するには **時間がかかる**。

「待つ」には根気が必要!

放送大学(教育相談)より

どれ位の時間、待てますか?



研ぎ澄まされた発問による授業をめざす (授業力の向上:教師の成長)発問が変わる (授業が変わり)子どもの活動が変わる (学び・人間関係の向上)子どもが変わる 授業で学級経営 (よりよい人間関係)学級が変わる

授業改善の楽しみ!

授業後の子どものつぶやき

考え過ぎて疲れた! 難しかったけど、楽しかった!

何よりの授業改善の励み(楽しみ!)

まとめ (今日のポイント)

- 1 しゃべりすぎの改善
- 2 研ぎ澄まされた発問の追究
- 3 沈黙を楽しむ

日々の授業改善を楽しみましょう!